

発行:敦賀市少年愛護センター

住所:敦賀市東洋町1番1号

電話:0770-23-0189 Fax:0770-23-0523

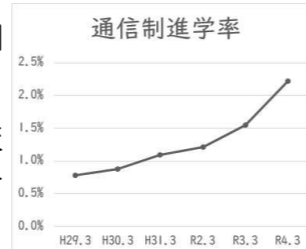
『青少年健全育成都市宣言』 都市:敦賀市

愛護センターだより

高校進学者数…

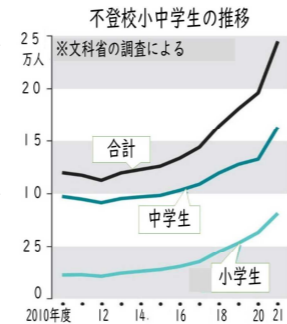
	平成29年3月卒		平成30年3月卒		平成31年3月卒		令和2年3月卒		令和3年3月卒		令和4年3月卒	
進学者数	7757人		7534人		7256人		7181人		7089人		7159人	
県内通信制	12人	0.2%	23人	0.3%	28人	0.4%	38人	0.5%	42人	0.6%	67人	0.9%
県外通信制	48人	0.6%	43人	0.6%	51人	0.7%	49人	0.7%	68人	1.0%	90人	1.3%
通信制	60人	0.8%	66人	0.9%	79人	1.1%	87人	1.2%	110人	1.6%	157人	2.2%

上の表は、福井県教育庁高校教育課が発表している「進路実態調査結果の概要」をもとに、平成29年からの通信制進学者を表にしたものです。高校進学者は少子化により減少傾向。令和3年度の高校進学者は平成28年度に比べて600人ほど少なくなっている中、通信制高校への進学者が増えていることがわかります。



文部科学省は令和4年10月27日、全国の「病気や経済的な理由などではない欠席が30日以上」の「不登校」小中学生は、2021年度 24万4940人（4万8813人 24.9% 増）で、過去最多であったと公表しました。主な理由は「無気力、不安」（49.7%）が第1位、「生活リズムの乱れ、遊び、非行」（11.7%）、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」（9.7%）と続いています。また、不登校とは別に新型コロナウイルス感染を避けるために30日以上登校を控えた小中学生は、20年度の約3倍となる5万9316人となっています。

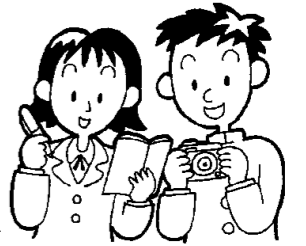
福井県でも、不登校者数は1087人で過去10年間で最多。小中学生全体の1.78%であり、100人に2人程の割合となっています。増加の原因は、やはり新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられ、校内での行動制限が多く、学校行事なども中止になり、児童・生徒が学校生活に楽しさを見つけにくくなっていると考えられます。



コロナ禍の影響を大きく受けた子ども達は、様々な活動が制限され、これまで当たり前できていた人との関わりができなくなっています。そのため、進学についても、人との関係作りを避けて、みんなと一緒に学ぶのではなく、個別に自分のペースで学ぶ方法を選ぶ傾向が見られるようです。SNSで社会との関わりを密にできる時代となっていますが、できれば人と直接ふれ合う中で多くのことを学んでほしいと思います。そのためには、まず、子ども達が安心して人と関わる場を設定していかないとダメですね。

高校で「総合的な探究の時間」

今年度からの高校の授業で重視されているのが「探究学習」。「探究学習」は、学んだことを生かして課題を発見し、解決する学びです。イメージとしては、小中学校で取り組んでいた理科の自由研究のように、興味のあることを調べてレポートを作成する…というもの。興味・関心のあることや地域や社会の課題について調べ、解決方法を考え、発表する学習です。新聞にも、高校生がいろいろなテーマをきめて発表している記事が掲載されているのを見た方も多いのではないのでしょうか。



- この「探究学習」によって、
- ①自ら課題を見つけることで、物事を深く考える姿勢
 - ②情報収集力や情報の真偽の判断力
 - ③情報から「何が言えるのか」「根拠はあるのか」などの思考力
 - ④「どうすればわかりやすく伝わるのか」等の表現力が身につくとされています。

そして、この「探究学習」に取り組む生徒ほど教科の正答率も高くなる傾向にあるようです。23年前に「探究科」を新設した京都市立堀川高校では、探究を学んだ初の卒業生は、国公立大学への現役合格者数がそれまでの約20倍となり、全国の教育者に注目されました。また、文部科学省が平成27年度に探究的な学びと教科の学力との関係を調査し、「探究的な学習に積極的に取り組んでいる生徒ほど教科の正答率が高い」と結論付けています。というのも、「探究学習」は知識を関連づける学習のため、学んだことを知識や他分野の情報や体験と結びつけて考えていくことで理解が深まり、しっかりと記憶されるようになるようです。教科の時間に知識を学び、「探究学習」でそれらを総動員して関連付け、答えのない問いの答えを作っていくことが、結果的に教科の知識定着にもつながり、正答率向上につながっていくと考えられます。また、こうした答えのない問題を考えていく力がこれから生きる上で必要な力とされています。

一方、大学入試は、推薦入試やAO入試の全体に占める割合は50%に迫る勢いです。さらに、「探究学習」の成果をもって大学へ進学できる「探究型入試」が登場し、一般入試を含め大学の選考を受けられる選択肢が増えています。

それは、大学は単に「答えを出す」だけではなく、自分で問いを立ててそれを解き明かす研究をするところ。大学では先生も学生もともに探究をする者として同じ立場で、互いの知的関心を尊重しながら学んでいくところです。だから、試験問題等を解くべく身につけた勉強の能力だけではなく、日頃から問いを抱き、考え、答えを見つけ、さらにそれを疑う力を持った生徒を入学させ、研究に取り組もうとしているのでしよう。



eスポーツ

最近、世界的にも賞金額が話題になり、ニュースでも取り上げられる機会も多くなった「eスポーツ」。eスポーツは、「エレクトロニック・スポーツ」の略。コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉えるときの名称です。



一般的には「スポーツといえば、運動をして汗をかくもの」と考える人が多いので、「eスポーツは、スポーツ？」と思う人もいるでしょう。健康を促進するスポーツと比較して、「eスポーツはゲームを楽しむもの」と認識する人は少なくありません。確かに、eスポーツは電子機器を用いるという点で、いわゆるスポーツとは異なりますが、「他者と競技し、成績を追求する点」は共通するところです。また、「eスポーツ」以外にも、囲碁や将棋などを「マインドスポーツ」、自転車などを使用した競技を「モータースポーツ」と呼ぶ点から、スポーツという言葉の解釈が変わりつつあるのでしょう。

さて、そのeスポーツ。海外では以前から盛んに行われており、競技人口は現在数億人ともいわれています。「アジア競技大会」では、2018年にeスポーツが公開競技として実施されました。2022年の中国・杭州大会ではメダル種目として正式認定されるようになり、今後オリンピックの競技入りについても検討されるようです。



日本では、一般社団法人 日本eスポーツ連合（JeSU）が組織され、年々その活動が活発になり、認知度も高まってきています。2019年茨城国体で文化プログラムの一環としてeスポーツが実施されました。国体中止の2020年は12月に「全国都道府県対抗eスポーツ選手権 2020 KAGOSHIMA」が開催され、去年は「全国都道府県対抗eスポーツ選手権 2022 TOCHIGI」が開催されました。また、日本人テニスプレイヤーである錦織圭選手や大坂なおみ選手らが「マリオテニスエース」を使用したチャリティ大会に出場するなど話題にもなりました。

一昔前なら「ゲームばかりしていないで！」は、保護者が子どもに注意することが多かった台詞ですが、「職業」として考える時代となり、eスポーツの認識を変えないといけなくなりました。プロゲーマーを目指すための専門学校もできています。

「職」として稼げるプロゲーマーになるためには、高性能の機器、緊張感や集中力の持久力、姿勢維持のための体力、目の酷使に備えた心身のケア等々が必要です。また、ゲームを長時間することで健康を害する懸念もあり、自分を厳しく管理することができなければ、その道は開けません。そうした自己管理ができるようにならないと「プロ」への道は厳しいのですが、子ども達にはその厳しさがなかなかわかりません。「プロゲーマーになりたいから一生懸命ゲームをする！」という子に、その夢を尊重しながら、その夢実現のために今やらなければならないことをしっかり話し合い、自ら努力できる子に育てなければなりません。子どもと将来について話し合える環境づくりが必要です。



青少年への愛のひと声活動……補導日誌から

○10月29日（土）19:00～21:00

アル・プラザ敦賀6階では20時を回っても父親とゲームをする幼児がいて気になりました。高校生らしい4名（内女子1名）が喫煙室の方へ歩いて行くので気になりしばらく様子を見ていました。最近、薬物取締法違反で市内の高校3年生が捕まる事案がありました。親にも知られずネットで何でも買える時代、気をつけていないと本当に怖いです。捕まった子が人生を狂わせないように、同じ過ちを繰り返さないように、この補導活動を含め、改めてしっかり関わっていかなくてはと思いました。薬物に限らず、一瞬の興味や日々の淋しさ、孤独感から悪いことに手を染めてしまう危険性は誰にもありうることです。どの子にも「つかず離れずの親心」を持って接し「一人じゃないよ」「見守っているよ」というメッセージを送っていかれたらと思います。

○11月4日（金）17:00～19:00

otta内のちえなみきの店員と話をしたところ、開店からしばらく過ぎて利用客も慣れてきたせいもあって、最近特定の高校生のマナーが悪くて困っているとのこと。特に大きな声で騒いだり、物を投げて他のお客さんの迷惑になったり、店員さんもどのように声をかけて良いのか困惑していた。

○11月15日（火）17:00～19:00

アル・プラザ敦賀6階で小学生3人兄弟がコインゲームをしていた。「就学時健康診断で早く下校し、おばあちゃんと遊びに来た」「おばあちゃんの買い物が終わったら帰る」とのことだった。お金の使い過ぎと不審な人には用心するように話し、店員さんにもそのことを伝え、帰るまで見守ってもらえるようお願いした。店員さんも了解してくださり、連携がとれた。



○11月18日（金）17:00～19:00

アル・プラザ敦賀6階外の駐車場で、市内小学6年の女子児童2人が動画撮影を行っており、声かけをした。「18時を過ぎ、辺りが暗くなっているからなるべく早く帰ること」「人目に付かない場所では様々な危険があること」を伝えた。映画館を利用した後、迎えまでの時間に動画を撮ろうと考えたとのことだった。新しくできる施設も含め、人目に付きにくいところをあえて利用する子ども達がいることがわかり、今後の補導巡視で気をつけてみていきたいと思う。



○11月28日（月）17:00～19:00

ちえなみきの店員さんからは「高校生が朝から来ている。開店と同時に良い席を取ろうと走って入店するのが困る」という話を聞いた。アル・プラザ敦賀では3Fに「無印良品」がオープン。文具売り場には多くの高校生がいた。また、「無印良品」の隣にはガチャガチャコーナーがあり、その種類も多く、今後見回った方がよいと感じた。

